

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岡山市立第三藤田小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒701-0221

岡山県岡山市南区藤田1757

E-mail _____

Website _____

幼児児童生徒数 男子 71 名 女子 74 名 合計 145 名

幼児・児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

1. ねらい及び6年間のプロジェクトデザイン

本校では、6年間のプロジェクトデザインとして、「いのちの学習」と銘打って、『様々なつながりの中から自分を見つめ直し、自分の生き方を考えていく』という活動を実践している。各学年の単元を、「宝物プロジェクト」と「幸せプロジェクト」の大きく2つのプロジェクトと捉え、子どもたちに育みたい思いや価値観を縦の系統で考えていく。

☆宝物プロジェクト

～地域・食・農業について学習していく中で、地域の人々の思いや生き方に学び、自分の生活を振り返る～

1, 2年生は生活科で、身近にいる地域の方々と交流し、ふれあって仲よくなる。その中で「自分たちはたくさんの人たちに支えられていること」に気づく。

3年生では、「地域の宝物を探す」活動を通して、自分たちの住む藤田には素晴らしい人(名人)がいることを知り、地域に愛着をもつ。

さらに5年生では、藤田の未来を考える。「20年後の藤田の米作りについての提案書」を作成する中で、日本の農業の抱える問題、農家の方の努力や工夫、そして地域に貢献したいという思いにふれる。その中で地域に誇りを持ち、今の自分たちにできることを考えて実践したり生活をふり返ったりする。

☆幸せプロジェクト

～環境・福祉・国際理解について学習することで、幸せについて考え、今の自分にできることを実践していく～

4年生では、「自分たちの住んでいる藤田はどんなまちなのか」について知る。「藤田を人や自然にやさしいまちにするために自分たちにできること」を考え実践していく中で、「藤田をやさしいまちにしたい」という思いを育む。

そして6年生では、世界に目を向ける。他の国の状況を知ったり支援活動を通して交流したりする中で、幸せについての思いや価値観の共通点や相違点に気づく。世の中のすべてのことは今の自分たちの生活とつながっていることに気づき、自分の生活をふり返ったり活かしたりする。

3. 各学年で育みたい力

3・4年生

(自分とのかかわりについて)

- 自分の課題について、大まかな見通しをもって追求することができる。
- 調べたことを整理して自分の考えをもつことができる。
- 地域へ目を向けて自分にできることから行動しようとするすることができる。
- 学習を通して培った自分の考えや思いを自分の生活に重ね合わせて考え、自分の生活に活かすことができる。

(他者とのかかわりについて)

- 相手の立場や気持ちを考えながらかかわることができる。
- 自分のまわりの人や自然に進んでかかわり、地域で行われている工夫や努力に気づくことができる。
- 相手にわかりやすく整理して表現し、調べたことを報告したり、それらを聞いて意見や感想を言ったりすることができる。
- 互いの考えの共通点や相違点を考えながら、話し合うことができる。

5・6年生

(自分とのかかわりについて)

- 自分や学年全体の課題について見通しをもって追求することができる。
- 調べた事実を関連づけて自分の考えをもつことができる。
- 社会の一員としてまわりに働きかけながら自分ができる活動をしようとするすることができる。
- 学習を通して培った考えや思いを自分の生活と重ねて考えたり、「これからどうあればよいか」など自分のかかわり方を考えたりすることで生活に活かすことができる。

(他者とのかかわりについて)

- 相手の立場や気持ちを理解して、かかわることができる。
- 自分のまわりの人や自然に進んでかかわり、関心の対象を広げ、人々の工夫や努力に気づき、社会への関心を広げることができる。
- 目的や意図に応じ、資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすることができる。
- 互いの立場や意図をはっきりさせながら、話し合うことができる。

2. 3年生の活動



2. 4年生の活動



2. 5年生の活動



2. 6年生の活動



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながり尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

<p>3～6年生：ESDカレンダーを活用し、クロスカリキュラムの授業を行うことで、各教科で培った力を、総合的な学習の時間に活用し、育んでいった。 地域の方を中心に、ゲストティーチャーとして、様々な活動についてご講義していただいた。</p> <p>6年生：Youtube「マニカ～ゴミ捨て場で働く少女～」 「カカオ農園で働く子ども達」 「悪魔の兵器地雷」</p>
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

《E S Dの視点に立った学習指導の目標》

教科等の学習活動を進める中で、「①持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な②能力や態度を身に付ける」ことを通して、持続可能な社会の形成者として、ふさわしい資質や価値観を養う。

《研究主題》

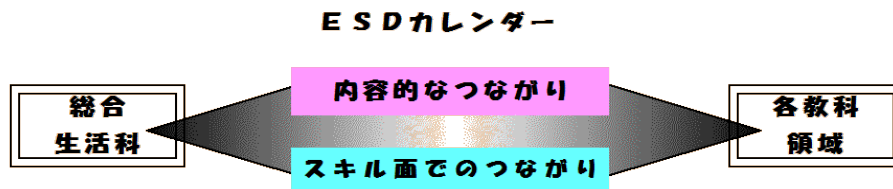
地域の方々が開拓し守ってきたこの藤田を、持続発展可能な地域としていくためには、藤田のよさをよく知り、藤田を愛する人を育てることが必要である。子どもたちは、この藤田の自然に囲まれ、地域の方々に支えられて生活している。「持続発展可能な社会の担い手を育てる」というE S Dの視点に立った教育活動を行うことが、郷土を愛し、さまざまな「つながり」に気づき、自分を振り返ることのできる子どもを育てることにつながると考え、「人・社会・自然などと自分とのつながりに関心をもち主体的に関わろうとする子どもの育成」という研究主題を設定した。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

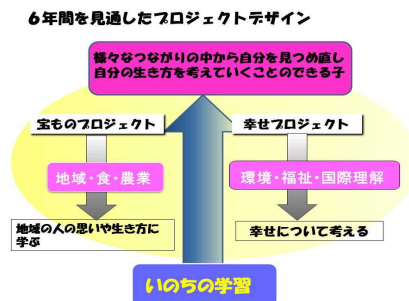
・ E S Dカレンダーの作成

横断的・統合的な指導を行うためにE S Dカレンダーを作成した。E S Dカレンダーは、「内容的なつながり」と「技能面でのつながり」に分け、その根拠を明らかにすることで、見通しをもち、学習内容のつながりを考えながら授業を進めたり、培いたい力を意識して指導したりできるようにした。



・ 6年間を見通したカリキュラムの作成

研究を進める中で、生活科・総合的な学習の時間の単元の中に、子どもたちに育みたい思いやもたせたい価値観のつながりがあることに気づいた。そこで各学年の単元を、大きく2つのプロジェクトと捉え、縦の系統を考えて6年間のカリキュラムをデザインした。



- ・ 中学校区の学校間で、ESDの取組を中心とした授業公開を実施したり、ESDの取組について、情報公開や共通理解の場を設けたりした。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

- ・ 中学校区で定期的集まり、共同での取組を相談したり、各校独自の取組を紹介し合ったりしている。
- ・ 中学校区で連携して、考えのもととなる事項を共通理解したり、推進に必要な仕組みを整備したり、見直し・検討が求められる事項を確認、修正したりして、推進に努めている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

- ・ 毎年度、中学校区で、実践報告会と実践発表会を実施している。自校の活動を発表したり他校の活動を聞いたりすることができている。また、地域の祭りでは、全校の ESD の実践を模造紙にまとめた掲示物を張り出し、児童や保護者、地域の方が観覧できるようにしている。
- ・ 実践発表会では、地域の方との意見交流の場を設け、地域を持続・発展させていくために、学校主導ではなく、“地域発”の取組を検討することができている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（200字程度）

3年生：学区農家 JA岡山藤田女性部
4年生：岡山市社会福祉協議会 岡山一番街 岡山市環境局 県立興陽高校
環境学習センターアスエコ 老人介護施設 明和製紙原料
5年生：学区米農家 JA岡山藤田支所 岡山大学 県立興陽高校
農業後継者クラブ
6年生：NPO法人ハートオブゴールド及びアジア事務所 NCCC
藤田公民館 六区保育園
全学年共通：第一藤田小学校 第二藤田小学校 藤田中学校
NPO法人ハート・オブ・ゴールド（ニューチャイルドケアセンター）
→国際交流や物資支援活動を実施している。
→ゲストティーチャーとして来校していただき、お話をしていたいたり、質問に答えていただいたり、体験活動を指導していただいたりした。

※チェック事項 2-3 に対応

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

- ・ 上記項目④⑤にあるように、中学校区にあるユネスコスクールと交流を行っている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

- ・児童は、地域に対する愛着を抱くようになり、地域に貢献したいという意識をもつことができるようになった。また、自分たちにできる、持続可能な社会（地域）づくりの考え方を意識することができるようになった。
- ・学校及び教員は、〈ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度・育成〉をもとにして授業や活動を実践していくことができている。
- ・地域や保護者は、学校教育及び学習活動に対して大変協力的で、積極的に関わろうとしてくれている。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

時期	活動内容 ・ 方法等
1 学期 2 学期 3 学期	<p>3年生「三藤のお宝をさがそう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「三藤の宝もの」について考える・イチゴ・タマネギ農家見学及び収穫体験 ・レンコン農家見学 レンコン調べ・インタビュー ・レンコン料理に挑戦 ・大豆栽培 ・藤田ふれあい祭り模造紙作り（イチゴ・タマネギ・レンコンについて） ・J A女性部の方の活動について取材 ・大豆のひみつについて学習 豆腐作りに挑戦 ・「三藤の宝もの」についてまとめる
1 学期 2 学期 3 学期	<p>4年生「やさしいまちづくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やさしいまち」について考える ・学区環境調査 ・アスエコ・明和製紙リサイクル教室 ・興陽高校菜の花プロジェクト参加 ・自然にやさしいまちづくり大作戦（実践） ・福祉体験教室（盲導犬・車いす・アイマスク・高齢者）・バリアフリー調査 ・人にやさしいまちづくり大作戦（実践） ・老人デイケア施設訪問 ・「やさしいまちづくり」についてまとめる
1 学期 2 学期 3 学期	<p>5年生「プロジェクト八十八」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「藤田に農業は必要か？」について話し合う ・農家の方のお話 木村式農法見学 ・バケツ稲・学校田での米作り（5～11月） ・フィールドワーク ・20年後の藤田の米作りについての提案書づくり ・提案書の意見交換 ・提案書の発表 自分たちにできることの実践
1 学期 2 学期 3 学期	<p>6年生「幸せって何？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「幸せ」について考える ・世界で起こっている諸問題について調べる ・ハートオブゴールドの方のお話・ハートオブゴールドの活動に参加（1回目の支援活動） ・スカイプによる交流 ・スカイプによるカンボジアへのインタビュー ・1回目の支援活動の反省をもとに、自分たちにできる活動を考え実践する（2回目の支援活動） ・ハートオブゴールドの方から報告を聞き、支援活動をふり返る ・活動をまとめ、自分たちの生活をふり返る